

礼拝順序 2020年4月5日

●賛美 聖歌 108 丘に立てる荒削りの
聖歌 396 慕いまつる主の

●聖 書 マルコ14章32~42

●メッセージ 「立ちなさい。さあ、行くのです」

14:32 ゲツセマネという所に来て、イエスは弟子たちに言われた。「わたしが祈る間、ここにすわっていなさい。」14:33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっしょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。

14:34 そして彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、目をさましていなさい。」14:35 それから、イエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、もしできることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈り、14:36 またこう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならなきことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたののみこころのままを、なさってください。」14:37 それから、イエスは戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「シモン。眠っているのか。一時間でも目をさましていることができなかつたのか。14:38 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」14:39 イエスは再び離れて行き、前と同じことばで祈られた。

14:40 そして、また戻って来て、ご覧になると、彼らは眠っていた。ひどく眼けがさしていたのである。彼らは、イエスにどう言ってよいか、わからなかった。14:41 イエスは三度目に来て、彼らに言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。もう十分です。時が来ました。見なさい。人の子は罪人たちの手に渡されます。14:42 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」

説教要約

I 導入

今日の箇所はゲッセマネの祈りという、とても有名な箇所です。ここは弟子とイエス様の間で一つの分岐点となっています。十字架の道に覺悟を決めて歩まれるイエス様と、そのイエス様から離れていく弟子たちです。言い換えるならこの個所は神の御心に従順に従ったイエス様と自らの自尊心に従った弟子たちの明暗がくっきりと分かれています。イエス様がゲッセマネの園で祈っている間、近くに呼び寄せたのはペテロ、ヨハネ、ヤコブという内弟子と言われる人達でした。イエス様が彼らに願われる事は聖書に「多く赦されたものは、多く愛する」とあるように、謙虚に他者を思いやる人でした。そしてキリストの許に失われた羊達を導く模範者となる事も願っていました。しかし彼らは自らが「選ばれし者」と勘違いをし、周囲に自分の存在を認めさせようとしたしました。そう彼らの問題は靈的に目が塞がれて、「苦難の僕イエス」の姿を見ようとしなかったところにあります。

ピリピ2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず～～2:9まで参照。この御言葉から私達が考えなければならない事は、私が求める栄光とは何か？神が求める栄光とは何か？です。イエス様は人に仕え、神に仕え、全ての人を救うために苦難の中でも僕の姿を取り続ける事を選ばれたのです。神はそのイエス・キリストに栄光を賜り、私達は主イエスの御名を唱える事で救われるのです。

II 本論(証)

日曜学校の教師になり最初は「自分が導かれたように私も子供たちを導く者になりたい！」と情熱を燃やしておりました。しかし現実は視覚教材を作る準備、日々の仕事等に追われ奉仕をこなすのがやつでした。次第に話を聞かず、問題行動ばかりおこす子供たちを心の中で裁きだすようになりました。

ある時疲れ果てて、会堂でお祈りしていた時でした。膝を折り、うなだれるようにお祈りしていた時、ふとイエス様の足が見えました。

私は怖くてうなだれたまま、イエス様を見上げる事が出来ませんでした。その時、私はイエス様を見上げる事はしませんでしたが、そのイエス様は白い衣を着て、血だらけでした。なぜかはっきりわからました。私はこの時、子供たちを一人の魂としてみていなかったことに気付かされました。自分がいつも中心になり、自分の言う事を聞かない子供、自分は忙しい中で頑張っている。そんな自分は正しい、あなた達は間違っているだから十字架が必要ですと言っている自分に気付かされました。

十字架が必要なのは私でした。その事を悔い改めた時、愛と赦しと平和が包み込み、又子供達をイエス様の許に導きたいと、情熱を燃やすようになりました。すると私の中で、何かを子供たちに言うよりも、耳を傾ける事が増えました。相手を尊重し、神様がどのように導くか御靈の声に耳を傾けるように変えられたのです。

III結論

ガラテヤ 5:24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。5:25 もし私たちが御靈によって生きるのなら、御靈に導かれて、進もうではありませんか。今回の説教はこの御言葉に集約されています。私達は神様に対して従順になれない時があります。怒りや不満を神様と人にぶつけてしまいます。従順が大切だとわかっていてもです。

だからイエス様は黙って私達の恥、弱さ、嘆き、プライドをすべて背負って十字架の道に歩まれたのです。ゲッセマネの祈りがあるから私達は今、祈る事が赦されています。御靈の導きを信じて祈る時、私達は神の前に従順になる事、そして人の前に従順になれるように導かれてまいります。最後に交わりの三省を一緒に復唱いたしましょう。

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈りあってますか。

人には出来ないが、神には出来ない事はありません。十字架のイエス様を見上げ、少しずつイエス様に近づけるように共に前進してまいりましょう。